

【タイトル】40代の妊娠・出産は、ワンダーランドだ!!

【概要】

本企画は、46歳で第1子を、48歳で第2子を出産した私が、夫、妊娠治療の医師、会社や同僚、妊活仲間たちとの出逢いや絆を通して、どのように出産するに至ったのか、実体験を語ります。snsでは、30代後半や40代の方々が、「子どもを望みながらも年齢を理由に悩んでいる」と書き込み、誰かに背中を押してもらいたがっている。そんな世の中だからこそ、私の妊娠治療にいたるキッカケから、リアルな妊娠治療の流れ、流産した時のこと、流産したことを転換点として医師任せにせず自分で調べることを始めたこと、流産の確率を減らすためにPGT-Aを選択したこと、会社や同僚との絆、当時日本で唯一公にPGT-Aを実施していた医師との出会い・絆、出産という同じ目標に向かい心から応援し合える妊活仲間との出会い・絆、何より同志であり最大の味方である夫と出産までの日々をどのように話し合ってきたのか、どのように絆を作り上げてきたのかをお伝えすることで、一つでも多くの絆を得て安心しながら我が子を抱けるかたが、一人でも多く増えてほしいと思い企画しました。

私は、年齢を理由にして諦めるのではなく、産みたい！子どもを育てたい！と思うかたに、医師に丸投げではなく、自ら模索し、自ら動いて産める道をつくり出し、少しでも出産できる可能性を自ら高める道もあるとお伝えしたい。妊活できる期間を過ぎてから、そんな方法があるなんて知らなかった、と後悔してほしくない。子どもを持ちたいと言いながら、心の奥底では子どもがいたら困ると無意識に全力でブレーキをかけていた私もいた。心のブレーキをはずす方法もある！本気で子どもを望む30代後半から40代のかたに、産みたい気持ちがあるなら、迷っている時間ももったいない！チャレンジして！と心から伝えたい。

産めることが正解で、産めなかったことが不正解ではなく、どんな結果が出ても、どんなに辛いことがあったとしても、全てをあなたの人生の幸せに繋がる通過点にすることができると伝えたい。少子化の現代において、子どもを望む方々の背中を、そっと後押しする本でありたいと願っています。

【想定する読者ターゲット】

- ①30代後半～40代の子どもを望む女性、そのパートナーのかた
- ②年齢のことで、本当に出産をしていいのかと不安で悩んでいるかた
- ③妊娠治療のリアルを知りたいかた
- ④40代出産の成功例を知りたいかた
- ⑤妊娠治療中で、夫とうまく話し合いができず困っているかた
- ⑥先の見えない妊娠治療で、心理的に辛いかた、モチベーション維持の方法を知りたいかた

【あらすじ】

当時、1年先まで予約がいっぱいで、日本中を飛び回っていた心理学講師である私。43歳が目前に迫ったある日、体調不良で訪れた婦人科の医師との出逢いがきっかけで突然、体外受精を始めることになった。初診で医師から「43歳で出産できるのは、3%以下」と現実を突きつけられたが、私は「3%可能性があるなら、私が3%に入ればいいだけだ！」と決めて治療をスタート。事前検査、人工授精、体外受精と進むが、受精卵にもならない。ようやく受精卵を移植でき、妊娠して喜んだら流産。我が子が死んでしまったという悲しみは想像を絶していた。どん底から救ってくれたのは、夫との絆。流産の確率を減らすためにPGT-Aを自力で探し当て選択。妊活に集中するため仕事をセーブ。会社や同僚たちからの理解と応援・絆を感じた。当時、日本で1箇所だけ公にしていたクリニックの医師と出逢い、一年かけてPGT-Aを10回行う。同じクリニックに通院していた妊活仲間と出逢い、同じ目的に向かう同志として、心から応援し合える絆の強さを実感。不育症も発覚する中、まるで真っ暗闇の中を手探りで出口を探すような孤独な妊活から、一筋の光である大切な絆を見つけていき、いかにして46歳で出産するに至ったのかをお伝えします。

【サンプル原稿】

□私が妊活に至るまで

2016年2月。

当時私は、43歳になる1ヶ月前でした。

42歳で夫と結婚したものの、
私は月の半分以上は、出張の予定が入っていて
全国を飛び回る生活。

結果的に、自然妊娠できないまま。

そんな時、
体調不良で生理が来なかった時がありました。

仕方なく、近所の産婦人科に診察へ。

診察室に入ると、
白髪のおじいちゃん先生が座っていて。

私の問診票を眺めながら、
先生にこう言われました。

『えっ！？42歳で拳児希望！？
本当に子どもが欲しいと思っているの？』

顔を合わせて、第一声で そう問われて
私もびっくり。

『はい！子どもが欲しいです！』

『そうなのね、、、
もうあなた、来月で43歳じゃない！！
こんな所でモタモタしてる時間ないよ！！
体外受精とか、顕微受精とかしている
専門のクリニックとか行かないと！！』

『ここら辺の地理にうとくて、
どこに専門の病院があるかもわからないんです、、、』

正直に言うと、先生は

『僕の後輩が、専門のクリニックを開業していて、
そこは妊娠成績がいいと聞いたから、
あなたが本気なら、紹介するよ。
どうする？』

その時までの私は、
体外受精など全く考えていなかったの

、、体外受精までしないとイケないのか、、

1年先まで講師予約の仕事もたくさん入ってるけれど、
仕事どうする？

夫とも相談した方がいいんじゃない？、、と、

一瞬のうちに頭の中に次々と浮かびましたが、

次の瞬間には、こう答えていました。

『はい！！本気です！！ 紹介してください！！』

やはり、私は夫との子どもが欲しかった。

先生は、すぐに私の目の前で電話をとり
どこかにかけて始めました。

ぼう然と聞いている私に、

『○日の○時！診察行ける？』

『はい！行けます！』

『初診まで半年待ちの状態だと言われたけれど
なんとか入れてもらったからね！
行ってきてね。』

『ありがとうございます！
はい！行きます！』

診察と、生理を起こす薬を処方していただき、
診察室から出た私は、我にかえりました。

私、体外受精とか始めるんだ、、

急すぎる展開に、自分でも驚き、ぼう然。。

この時は、
この先どうなるのかがわからなかった。

でも、一方では
体外受精をしたら、すぐに子どもが持てるのでは？
という希望も持っていました。

これがとっても安易な考えだとも、
この時の私は、全然わかっていませんでした。

□初めての妊娠治療クリニック
産婦人科の先生に、
電話で予約を入れていただいた日時に

ご紹介いただいた
体外受精専門のクリニックに着いた私。

待合室に入ってみると、
ほぼ満席の人・人・人！！

『え！？
体外受精をする方って、こんなにいるの！？』

それが第一印象でした。

そういえば、産婦人科の先生が電話したとき、
「初診まで半年待ち」と仰っていたっけ、、

通院する人を半年先まで調整しても
こんなに待合室がいっぱいなくらいの人が
体外受精してるんだ、、

そんな気持ちがよぎりました。

受付し、大量の問診票を書いて提出、
かなり長い時間待って、
ようやく診察室に呼ばれました。

40代くらいの男性の先生。

挨拶もそこそこに、
私の問診票を眺めて、

子宮や卵巣の絵が描いてあるメモ用紙に、
妊娠の成り立ちから教えてくださいました。

卵巣から排卵された卵が
卵管采(らんかんさい)に取り込まれて卵管へ。

卵管で精子と出会って受精。
細胞が2つ、4つと分割しながら子宮の方へ進み、

子宮に着いた時には、
将来、赤ちゃんになる部分と胎盤になる部分の細胞ができていて、

細胞が、受精卵の殻を破って出てきて、
アメーバみたいに子宮内膜に潜り込む。。。

そうやって、着床していくのだそうです。

自分で殻から出て、
子宮内膜に潜り込む！？

知らないことが、いっぱいでした。

ひと通り、お話を聴いてから

先生が私をみて、真顔で仰いました。

『体外受精は、身体的にも経済的にも
とても負担がかかります。』

体外受精をしたとしても、
年齢によって、成功率が変わります。

20歳なら、40%以上、
30歳なら、30%以上、
35歳なら、20～25%、
40歳なら、10～15%、、

あなたはもうすぐ43歳ですよ。

今から体外受精をしたとしても、
あなたが子どもを出産できる確率は、

3%以下です！！

それでも体外受精をしたいですか？』

そして、メモ用紙に、

『43歳 3%↓』と、書きました。
体外受精まで行ったとしても、
私が出産できる可能性は、3%以下！！なのか、、、

当たり前ですが、
厳しい現実を突きつけられました。

心のどこかでは、
確率の低さに驚愕しながら、

、、、そうか、、体外受精をしても、
私が出産できるのは3%以下か、、、

とは思いましたが、

次の瞬間には、

『でも、3%可能性があるのなら、
私とその3%に入ればいいだけだ。』

100人いたら、
上位3人に入ればいいんだよね。。。

3人中なら、私、入れるんじゃない？

よし！やろう！！』

そんなふうに思っていて。

先生には、
『はい！やります！！』と、即答していました。

それを聞いて、
先生は今後行う検査などを説明し始めました。

たくさん検査する項目があって、
生理周期に合わせて行わないといけないものも多く、

最短でも1ヶ月。
だいたい事前検査だけで、1～2ヶ月かかりそうでした。

先は長いな、、、
仕事の調整できるかな、、、

正直、そう感じていました。

そして、
また、この他にも壁が出てくることを
この時の私は、まだ知りませんでした。

[以上となります。よろしくお願ひいたします]